

平成28年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

集約化による効率的な事業を展開、地域全体の事業量・雇用拡大に貢献

○氏名又は名称 八頭中央森林組合（代表 前田 幸己）

○所在地 鳥取県八頭郡八頭町

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

鳥取県東南部は、兵庫県、岡山県との県境に1,000mを越える山々が連なり、県東部の重要な水源地である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

当組合は、八頭町、若桜町及び鳥取市の一部を管轄する鳥取県最大の広域森林組合である。平成19年から利用間伐主体の経営へ転換し、森林施業の集約化と路網等の基盤整備を進め、コスト意識を持って収益のある利用間伐を推進してきた。将来の目標は、一定の木材生産量を確保しつつ循環的利用が可能となる森林を、次世代に引き継ぐこととしている。平成19年度3億円だった取扱高は、平成27年度は11億円を超えた。

・受賞者の特色

（1）集落を糸口にした施業集約化の推進

年間130回以上の集落座談会を重ねて集約化の必要性を訴え続け、丁寧に集落毎の問題解決を図った結果、森林経営計画は、平成27年度末に累計118団地、約1.1万haに上り、そのほぼ全ての面積を経営受託により策定している。

（2）異業種・新規参入事業者との連携による円滑な事業拡大

事業拡大に伴い、組合作業班の人員・機械装備を拡充するとともに、建設業者や新規参入事業者との連携を拡大した。これにより、路網開設延長は平成19年度に5km/年であったものが平成27年度には73km/年へと伸び、素材生産量は平成19年度に600m³であったものが平成27年度には66,531m³へと増大した。また、連携事業者は18社に及ぶ。

（3）成果主義を取り入れた職員育成

I・Uターンを含めた職員の採用を進め、平成19年に29名だった職員数は、平成27年には73名に達している。職員教育にも積極的に取り組むとともに、能力に応じた職員配置や生産量を賞与に反映させるなど成果主義を導入している。

・普及性と今後の発展方向

集約化による利用間伐の推進と森林組合の改革を同時に展開し、連携事業者を含め地域全体の事業量・雇用拡大を実現している。林業の成長産業化に向けた全国のモデルになるものと期待される。